



おわりに

多様性という言葉を耳にする機会が、さまざまな場面で増えました。多様性を尊重するために、思いやりや想像力といったこれまで道徳教育の中などでよく使われてきた事柄だけではなく、既存の「当たり前」とされてきたルールを見直して新しいルールを考える知恵が必要であることが、本書には繰り返し書きました。

新しいルールをつくることは一人だけではできず、周りの人との合意形成が必要な場面も多々あります。学校という組織内で話を進めるにあたって、数年以上の時間がかかることもあれば、誰かが口火を切る必要があっただけで、提案してみれば半年以内に変えられることもあるかもしれません。多様性を尊重した学校づくりの実践もまた多様であり、一つの答えがあるわけではありませんが、だからこそできるところからできるやり方で、少しでも変化をつくっていく動きが出てくることを願っています。

本書を作成するにあたっては、たくさんの方にお世話になりました。さまざまな実践について時間を取って快くインタビューに応じてくださった皆様、たくさんさんの葛藤や現場を変えていく勇気を私に教えてくれた学校関係者、また子どもたちとその保護者に心より厚くお礼申し上げます。皆様なしでは本書は生まれませんでした。また、二年にわたる連載を励まし続けてくれた編集者

の高村瞳子さんにも大変お世話になりました。

最後に、「にじーず」の話を少しだけさせてください。LGBTの子どもが安心して集まれる居場所は全国的にとても乏しく、子どもたちはインターネット上でしか自分と似たような人を探せない状況が続いています。「ぼくの住んでいる街に、にじーずは来ますか」という問い合わせが日々きている状況ですが、リクエストに応じられない苦しさが続いています。寄付によって運営を支えてくださる方が増えれば、それだけ各地に拠点が増えます。ぜひ応援いただけると大変助かります。「にじーず」への寄付は団体ホームページからできます。「にじーず」で検索してください (http://24zzz-lgbt.com/donation/)。

もっと言えば、「にじーず」というかたちでなくても「地域の中でLGBTが孤立しなくて済むような、集まれる場をつくろう」と考えて、行動できる大人が増えてくれたらいいなと思っています。例えば、年に一回、LGBTについての映画の上映会を企画して、地域の人が誰でも来られるようにするというのもよいでしょう。カミングアウトしなくても、当事者もそこに参加して勇気をもらせるような場がもっと全国に増えたらいいなと思っています。

最後までリクエストだらけになってしまいました。読者の皆様が本書を通じて「これをやってみよう」と何か一つでもトライすることができたら、著者としてこれほどうれしいことはありません。